

問1 札幌市の気候の特色を、本州の都市と比較して説明したものととして、最も適切な内容を選んでください。（2023年 福井公立入試 類似）

- |  |   |   |   |
|--|---|---|---|
| 1. 緯度が高いため1月の平均気温が氷点下となり、梅雨や台風の影響が少ないため夏季の降水量が本州に比べて抑えられている。 | 2. 日本海流の影響を強く受けるため、1月の平均気温は氷点下にはならず、年間を通じて降水量が平均化されている。 | 3. 季節風の影響で冬の降水量は本州の日本海側より多いが、夏季は太平洋高気圧の影響で非常に高温多湿となる。 | 4. 1月の平均気温が氷点下となる一方で、梅雨前線の停滞により初夏の降水量が本州の都市よりも多くなる。 |
|--|---|---|---|

問2 札幌などの北海道西部に位置する都市では、冬の降水量（雪）が他の地域に比べて多くなる傾向があります。このような気候の特徴が生じる主な理由として最も適切な説明はどれですか。（2018年 長野県公立入試 類似）

- |   |  |   |   |
|---|--|---|---|
| 1. 対馬海流（暖流）の上を通る湿った空気が、北西の季節風によって運ばれてくるため | 2. リマン海流（寒流）の影響で冷やされた空気が、太平洋からの湿った風とぶつかるため | 3. オホーツク海高気圧から吹き出す冷たく湿った北東風が、山脈を越えて流れ込むため | 4. 小笠原気団の発達により、南からの温かく湿った空気が年間を通じて供給されるため |
|---|--|---|---|

問3 北海道ではパルプ・紙・紙加工品製造業が地域の主要な産業の一つとなっています。この工業が北海道で発達した背景として、最も適切な理由を選びなさい。（2021年 京都公立入試 類似）

- |                           |                           |                                  |                                |
|---------------------------|---------------------------|----------------------------------|--------------------------------|
| 1. 原料となる豊かな森林資源が豊富に存在するため | 2. 大規模な消費地である東京圏に隣接しているため | 3. 海外から輸入した木材チップの加工に特化した貿易港があるため | 4. 内陸部に高度な技術を持つ機械部品工場が集積しているため |
|---------------------------|---------------------------|----------------------------------|--------------------------------|

問4 札幌において、冬（12月～2月）の降水量が東京などの太平洋側の都市に比べて多くなる理由を、地理的な背景から説明したものとして正しいものはどれですか。（2021年 茨城県公立入試 類似）

- |                               |                               |  |  |
|-------------------------------|-------------------------------|--|--|
| 1. 冬に湿った北西の季節風が吹き込み、雪を降らせるため。 | 2. 冬に湿った南東の季節風が吹き込み、雪を降らせるため。 | 3. 暖流である対馬海流から蒸発した水蒸気が、北東の季節風によって運ばれるため。 | 4. シベリア高気圧から吹き出す乾燥した風が、太平洋上で水分を蓄えて戻ってくるため。 |
|-------------------------------|-------------------------------|--|--|

問5 日本の酪農において、北海道は大消費地から離れているという地理的条件に対応するため、生産された生乳の多くをある形態に変化させて出荷しています。この形態と、その主な製品の組み合わせとして正しいものはどれですか。（2016年 秋田県公立入試 類似）

- |                  |                   |                        |                  |
|------------------|-------------------|------------------------|------------------|
| 1. 加工用 — バターやチーズ | 2. 飲用 — 牛乳やコーヒー牛乳 | 3. 地場消費用 — ヨーグルトや生クリーム | 4. 輸出用 — 脱脂粉乳や練乳 |
|------------------|-------------------|------------------------|------------------|

問6 北海道の工業において、食料品工業が製造品出荷額の約3割を占める最大の製造業部門となっている背景を説明したものととして、最も適切なものはどれですか。（2018年 三重公立入試 類似）

- |  |  |   |   |
|--|--|---|---|
| 1. 広大な土地や豊かな海から得られる農水産資源が豊富であり、原材料の調達容易であるため | 2. 原材料を海外から輸入し、消費地である関東地方に近い港湾部で加工・輸送するのに適しているため | 3. 電力供給が安定しており、大規模な電力を必要とする金属の精錬や基礎化学品の製造に向いているため | 4. 高度な技術力を持つ労働力が集中しており、自動車や精密機械などの組み立て工場が密集しているため |
|--|--|---|---|

問7 北海道地方と九州地方の工業出荷額の内訳を比較した際、北海道では製造品出荷額のうち食品工業が占める割合が最も高いのに対し、九州地方では自動車などの機械工業の割合が高いという特徴が見られます。北海道において、特に食品工業の割合が高くなっている理由として、最も適切な説明を選びなさい。（2016年 大分県公立入試 類似）

- |   |  |  |   |
|---|--|--|---|
| 1. 広大な土地を活用して生産される農産物を原料として、現地で加工を行う工場が多いため | 2. 海外から輸入した石油などの原料を加工する臨海型の工業地帯が全国的に見て集中しているため | 3. 最先端の技術を必要とする集積回路（IC）の工場が、空港や高速道路周辺に数多く建設されたため | 4. 豊富な森林資源を背景として、住宅用の木材や製紙・パルプの製造が製造品出荷額の半分以上を占めているため |
|---|--|--|---|

問8 北海道の泥炭地における土地改良の取り組みについて、不毛な湿地を農地に変えるために「排水施設の整備」と共に行われた、他の場所から新しい土を運び入れる作業の名称を選びなさい。（2025年 群馬公立入試 類似）

- |       |       |       |       |
|-------|-------|-------|-------|
| 1. 客土 | 2. 輪作 | 3. 干拓 | 4. 減反 |
|-------|-------|-------|-------|

## 答え合わせ・解説

問1	<b>答え 1</b> 緯度が高いため1月の平均気温が氷点下となり、梅雨や台風の影響が少ないため夏季の降水量が本州に比べて抑えられている。	札幌市が位置する北海道は、日本の最北部に位置するため1月の平均気温が氷点下になるという厳しい寒さが特徴です。また、本州以南とは異なり、梅雨の影響をほとんど受けず、台風の通過も相対的に少ないため、夏季の降水量が本州の主要都市に比べて少なくなるという背景があります。
問2	<b>答え 1</b> 対馬海流（暖流）の上を通る温った空気が、北西の季節風によって運ばれてくるため	日本海側を流れる対馬海流は暖流であり、冬でも海水の温度が比較的高い状態にあります。この海上で発生した水蒸気を、大陸から吹き付ける冷たい北西の季節風が取り込み、北海道西側の山地にぶつかると雪として降らせます。このため、日本海側に面した地域では冬の降水量が多くなる特徴が見られます。
問3	<b>答え 1</b> 原料となる豊かな森林資源が豊富に存在するため	パルプ・紙・紙加工品製造業は、木材を原料とするため、森林資源が豊富な地域で発達しやすいという特性があります。北海道は日本全体の森林面積の多くを占めており、この豊かな森林資源を背景に製紙業などが地域の主要産業へと成長しました。
問4	<b>答え 1</b> 冬に温った北西の季節風が吹き込み、雪を降らせるため。	日本の冬はシベリア高気圧から北西の季節風が吹きます。この風が日本海を渡る際に水蒸気を蓄え、北海道の日本海側に位置する札幌などに雪をもたらします。そのため、冬の時期に晴天が多く降水量が少ない太平洋側の都市と比較して、札幌では冬の降水量（降雪量）が多くなるという因果関係が生じます。
問5	<b>答え 1</b> 加工用 — バターやチーズ	北海道で生産される生乳の約84%は、バターやチーズなどの原料となる「加工用」として利用されています。これは生乳のままでは長距離輸送の間に品質が低下してしまうため、保存性を高めた乳製品に加工する必要があるからです。対して、都市に近い産地では、ほぼすべての生乳が「飲用」としてそのまま出荷される傾向にあります。
問6	<b>答え 1</b> 広大な土地や豊かな海から得られる農水産資源が豊富であり、原材料の調達が容易であるため	工業の立地はその地域の資源と深く関わっています。北海道はジャガイモやテンサイ、乳製品などの農産物、および沿岸・沖合で獲れる水産物が豊富です。これらを腐敗させずに効率よく加工するために、産地に近い場所で食料品工業が発達しました。その結果、全国平均と比較しても食料品工業への依存度が非常に高い産業構造となっています。
問7	<b>答え 1</b> 広大な土地を活用して生産される農産物を原料として、現地で加工を行う工場が多いため	北海道は日本の食料基地とも呼ばれ、広大な大地から収穫されるジャガイモ、甜菜（てんさい）、乳畜産物などが豊富です。これら重量のある原料を鮮度が高いうちに加工したり、輸送効率を高めたりするために、産地の近くに工場を置く「原料指向型」の食品工業が発展しています。これに対し、九州地方では「シリコンアイランド」としての集積回路や、自動車などの機械工業が大きな割合を占めるという違いがあります。
問8	<b>答え 1</b> 客土	泥炭地は植物の遺骸が腐敗しきらずに堆積した土地で、水分が多すぎて農業に適しません。この土地に別の場所から良好な土を運び込んで層を作ることを「客土（かくど）」と呼びます。この作業によって土地の質を改善し、排水施設で水分を除くことで、ジャガイモやテンサイなどの畑作や、牧草地としての利用が可能になりました。